SONY

Digital Voice Editor 2

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

この取扱説明書は、付属の「Digital Voice Editor」ソフトウェアのインストール方法と基本的な使いかたを簡単に説明しています。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。
なお、最新の情報がCD-ROMのReadme.txtファイルに記載されていますので、併せてお読みください。

この説明書は100%古紙再生紙とVOC(揮発性有機化合物)ゼロ植物油型インキを使用しています。

http://www.sony.co.jp/

はじめに

この取扱説明書では、付属のソフトウェアのインストール方法と使いかたを簡単に説明します。詳しい操作の説明は、オンラインヘルプにあります。本書裏面の「オンラインヘルプを使う」をご覧になり、オンラインヘルプもお読みください。また、始める前に、ICレコーダー本体の取扱説明書もご覧ください。

□ 権利者の許諾を得ることなく、このソフトウェアを賃貸に使用することは、著作権法上禁止されております。
□ このソフトウェアを使用したことによって生じた金銭上の損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は一切その責任を負いかねます。
□ 万一、製造上の原因による不良がありましたらお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦ください。
□ このソフトウェアは、指定された装置以外には使用できません。
□ このソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

ご注意
- 本ソフトウェアは、この取扱説明書の画面と一部違うところがある場合があります。
- この取扱説明書は、お客様がWindows®の基本操作に習熟していることを前提にしています。パソコンの操作については、お使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。
- 操作説明のイラストは、ICD-S/ICD-ST/ICD-SX/ICD-MS/ICD-BPシリーズのICレコーダーと接続した場合のものを使用しています。

Digital Voice Editorでできること

Digital Voice Editorを使って、ソニーICレコーダーに録音した用件をパソコンに取り込み、用件の管理、再生などを行うことができます。 なお、お使いになるICレコーダーによって、一部機能が制限される場合があります。

●ICレコーダーで録音した用件をパソコンに取り込む
ICレコーダーに録音した用件を、USB接続または“メモリースティック”経由で、用件単位、フォルダ単位、または全用件ごとパソコンのハードディスクなどに保存できます。保存形式は、“メモリースティック”などのMSV（LPEC）ファイル（ICD-Sシリーズ/ICD-MS5xxシリーズ用）、MSV（ADPCM）ファイル（ICD-MS1/MS2用）、ソニー独自のDVFファイル（ICD-BP/ICD-ST/ICD-SXシリーズ用）、Windows標準のWAVファイルから選べます。

●パソコン上で用件を再生する
用件をパソコン上で再生することができます。 通常の再生のほか、1件リピート再生、AB間リピート再生、イージーサーチ、ブックマーク再生を行うことができます。また、再生スピードの調節も可能です。

●パソコンに保存した用件をICレコーダーに追加、ICレコーダーで再生する
一度パソコンに保存した用件はもちろん、E-mailなどで受け取った音声ファイル（DVF、MSV（LPEC/ADPCM）、WAV形式*）を用件単位、フォルダ単位で、USB接続または“メモリースティック”経由で、ICレコーダーに追加することができます。追加した用件は、ICレコーダー上で再生できます。

* USB接続で追加する場合は、ICレコーダーに合ったファイル形式で追加されます。“メモリースティック”経由で追加する場合は、追加するファイル形式の設定が必要です。

●パソコン上でICレコーダー内またはパソコンに保存された用件を編集する
用件タイトルやユーザー名の変更、用件のソート、重要マークやブックマークの設定／解除、用件の分割／結合など、パソコン上でさまざまな編集が可能です。ICレコーダー内の用件については、パソコン上で順番を移動させることができます。また、パソコン内に保存された用件については、音声ファイル形式を変換して保存することができます。

●その他の便利な使いかた
– Microsoft Outlook ExpressなどのMAPI対応のメール送信ソフトウェアを利用して音声ファイルを添付して音声メールを送れます。
– 株式会社アスキー ソリューションズの音声認識ソフトウェアDragonSpeech Select またはIBM社の音声認識ソフトウェアViaVoiceとの組み合わせで、ICレコーダーで録音し、Digital Voice Editorでパソコンに取り込んだ音声を、文字に変換（テキスト変換）することができます。
– Digital Voice Editor側でICレコーダーのユーザー名、タイマー録音やアラーム再生の設定／解除やその他の動作モードなどを変更することができます（ICレコーダーによっては、機能が制限されます）。
– CD Recording Tool for DVEを起動して、CDの音声を再生したり、パソコンのハードディスクにDigital Voice Editorの音声ファイル形式で保存することができます。保存したファイルは、Digital Voice Editorを使ってICレコーダーに追加できます。（CD Recording Tool for DVEは、個人の使用の範囲内でお使いください。）

各操作の詳細はオンラインヘルプを参照してください。

必要なシステム構成

付属のソフトウェアを使うためには、次のようなハードウェア、ソフトウェアが必要です。

■以下の性能を満たしたIBM PC/ATおよびその互換機
（NEC PC-98シリーズとその互換機、自作PCでは動作保証いたしません。また、Macintoshには対応していません。）
– CPU： 266MHz以上のPentium®IIプロセッサもしくは同等の性能を有するプロセッサ
– RAM容量：64Mバイト以上
– ハードディスクの空き容量：70Mバイト以上（音声データの扱い量に比例して多くの空き容量が必要です。）
– ドライブ：CD-ROMドライブ/“メモリースティック”ドライブ*1
– 通信ポート：USB ポート*2（従来のUSB1.1に対応）
– サウンドボード：Sound Blaster 16互換
– ディスプレイ：ハイカラー（16 ビットカラー）以上、800 x 480 ドット以上

■OS： Microsoft Windows® XP Professional/Home Edition、Windows® 2000 Professional、Windows® Millennium Edition、Windows® 98 Second Edition、Windows® 98 標準インストール（日本語版）*3（Windows® 95、Windows® NTには対応していません。）

*1 ICレコーダーと接続せず、“メモリースティック”に録音した用件を直接パソコンに取り込む場合に必要です。パソコン本体に“メモリースティック”の挿入口がない場合は、以下のいずれかの“メモリースティック”対応アダプター（別売り）が必要になります。
- “メモリースティック”用PCカードアダプター（MSAC-PC3など）（パソコンにPCカード挿入口がある場合）
- USB 対応メモリースティックリーダー/ライター（MSAC-US70など）

“メモリースティック”対応アダプターによっては、上記以外の条件を必要とする場合があります。フロッピーディスクアダプター（MSAC-FD2A）のご使用は推奨いたしません。

*2 USB端子付きICレコーダーとパソコンを接続する場合に必要です。または、“メモリースティック”を“メモリースティック”の挿入口がないパソコンに、USB 対応メモリースティックリーダー/ライターで接続する際にも必要です。

*3 Windows® 2000 Professionalでは、通常の使用は必ず管理者権限（Administrators）、または標準ユーザー権限（Power Users）に所属するユーザー名でログオンしてお使いください。制限ユーザー権限（Users）に所属するユーザー名では使用できません。
Windows® XP Professional/Home Editionでは、通常の使用は必ず「コンピュータの管理者」に所属するユーザー名でログオンしてお使いください。「制限付きアカウント」に所属するユーザー名では使用できません。

音声認識をお使いになる場合のご注意

株式会社アスキー ソリューションズのDragonSpeech Select（別売り）と組み合わせて音声認識機能を使う場合は、上記に加えてDragonSpeechが必要なシステム構成（動作環境）も満たしている必要があります。音声認識について詳しくは別冊の「DragonSpeech音声認識の手引き」をご覧ください。

音声メール送信機能をお使いになる場合のご注意

以下のメールソフトウェアと組み合わせてお使いになれます。上記に加えてお使いになるソフトウェアが必要なシステム構成（動作環境）も満たしている必要があります。なお、音声メールを送るには、別途インターネットサービスプロバイダと契約する必要があります。
- Microsoft® Outlook Express 5.0/5.5/6.0
- Microsoft® Outlook 2000/2002/2003
- Eudora Pro 4.2-J、Eudora 4.3-J（ペイドモード）/5.0-J/5.1-J/6J

Digital Voice Editorをインストールする

Digital Voice Editorをパソコンのハードディスクなどにインストールします。

ご注意
- Digital Voice Editorをインストールする前にICレコーダーをパソコンに接続しないでください。先に接続した場合、ICレコーダーを認識できません。
- Windows® 2000 Professional上でインストールを行う場合、必ずユーザー名「Administrator」でログオンした後に行ってください。
- Windows® XP Professional/Home Edition上でインストールを行う場合、必ず「コンピュータの管理者」*に所属するユーザー名（半角英数字のみ）でログオンした後に行ってください。
  * ユーザー名が「コンピュータの管理者」に所属しているかの確認は、Windowsの［コントロールパネル］－［ユーザー アカウント］を開き、表示されるユーザー名の下の部分をご覧ください。
- 本ソフトウェアをインストールすると、インストール先のOSによっては Microsoft DirectXのモジュールがインストールされる場合があります。このモジュールは本ソフトウェアのアンインストールによって削除はされません。
- インストールを始める前に、Windowsの他のアプリケーションは終了させておいてください。既存のDigital Voice Editorを起動している場合も終了させてください。
- 本ソフトウェアをインストールした後に、Memory Stick Voice Editor 1.0/1.1/1.2/2.0をインストールしないでください。本ソフトウェアが正常に動作しなくなります。（本ソフトウェアで“メモリースティック”上の用件の操作、編集ができます。）

1　ICレコーダーを接続していないことを確認し、パソコンの電源を入れ、Windows®を起動する。

2　付属のCD-ROMをCD-ROMドライブに挿入する。
CD-ROMを入れると、インストーラーが自動的に起動し、次の画面が表示されます。起動されない場合は［Japanese］フォルダの中の［DVEsetup.exe］をダブルクリックしてください。

☞Digital Voice Editorの旧バージョン/Memory Stick Voice Editorをインストールしている場合
旧バージョンのDigital Voice Editor/Memory Stick Voice Editorを削除するダイアログボックスが表示されます。画面の指示に従ってアンインストールを行ってください。（用件ファイルは削除されません。）アンインストールが終わると、上の画面が表示されます。

3　［次へ］をクリックする。
「使用許諾契約」画面が表示されます。

4　使用許諾契約の内容を確認し、［同意します］をクリックする。
ソフトウェア使用許諾契約書の内容をよくご確認ください。［同意します］をクリックすると、［オーナー名入力］ダイアログボックスが表示されます。

5　オーナー名を入力する。
オーナー名は、Digital Voice Editorの使用権限と範囲を制限するために設定します。複数のパソコンでお使いになる場合は必ず同一のオーナー名をお使いください。

ご注意
- 一度入力したオーナー名は変更することはできませんので、書き留めて保管しておいてください。
- CDから録音されたファイルは録音を行ったパソコンと異なるオーナー名のパソコンでは使用できません。不正なデータ改ざんを行った場合や、個人の使用の範囲外でファイルが使用された場合は、ファイルが再生できなくなったり、Digital Voice Editorが起動できなくなる場合があります。

「インストール先の選択」画面が表示されます。

6　インストール先のフォルダを確認し、［次へ］をクリックする。
「アイコンのグループ名設定」画面が表示されます。

7　登録するプログラムグループ名を確認し［次へ］をクリックする。
「ファイルのコピー」画面が表示されます。

8　［インストール］をクリックする。
インストールが終わると、「インストールの完了」画面が表示されます。

9　［完了］をクリックする。
インストール画面が閉じます。［再起動］のダイアログボックスが表示されたら［OK］をクリックして、再起動します。再起動後、インストールが完了します。

アンインストールする

このソフトウェアが不要になった場合は、以下の手順で削除してください。

1　［スタート］ボタンをクリックし、［プログラム］→［Sony Digital Voice Editor 2］→［アンインストール］を順に選ぶ。
アンインストーラーが起動されます。

2　画面の表示に従って操作する。

ご注意
このソフトウェアを一度インストールしたあと、別のドライブまたはフォルダに移動させる場合は、アンインストールしてから再度インストールを行ってください。ファイルを移動しただけでは、ソフトウェアは動作しなくなります。

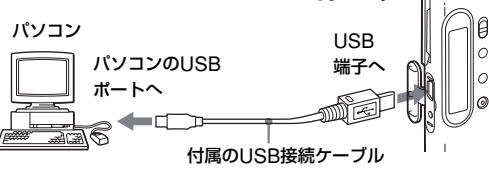
☞ ［設定］→［コントロールパネル］→［アプリケーションの追加と削除］でもアンインストーラーを起動することができます。

☞ ソフトウェアを削除しても、パソコンに保存した用件ファイルは削除されません。

ICレコーダーをパソコンに接続する

ICレコーダーとパソコンで用件をやりとりするためには、ICレコーダーをパソコンに接続します。お使いになるICレコーダーによって接続方法が異なります。

USB経由で接続する（USB端子付きICレコーダー）

ICレコーダーのUSB端子とパソコンのUSBポートを、付属のUSB接続ケーブルで接続します。
USB接続ケーブルは、ICレコーダーとパソコンの電源を入れた状態で抜き差しできます。接続するとすぐにパソコン側でICレコーダーを認識することができ、用件のやり取りが行えます。

ご注意
- ICレコーダーをパソコンに接続する前に必ずソフトウェア（お使いになるICレコーダーのドライバとDigital Voice Editor）をインストールしておいてください。ソフトウェアをインストールしないで接続した場合、「新しいデバイスの検索ウィザード」などが表示されますが、その場合は［キャンセル］をクリックしてください。
- お使いのICレコーダーによっては、はじめてパソコンのUSBポートに接続した場合、Windows® XP Professional/Home Edition上では、「新しいデバイスの検索ウィザード」が表示されます。［ソフトウェアを自動的に追加する］を選択し、［次へ］をクリックしてください。ここで「ハードウェアのインストール」という警告が表示される場合がありますが、動作上問題はありませんので、［続行］を選択してください。
- 1台のパソコンに2台以上のUSB機器を接続した場合の動作保証はいたしかねます。
- USBハブ、またはUSB延長ケーブルをご使用の場合の動作保証はいたしかねます。必ず、付属の専用USBケーブルのみで接続してください。
- 同時にお使いになるUSB機器によっては、正常に動作しないことがあります。
- パソコン接続時はICレコーダーの電池残量（[電池マーク]1個点灯以上）を確認してから使用してください。電池の残量が少ない場合、通信ができないことがあります。ICD-ST/S/SXシリーズの場合、ACパワーアダプターもお使いになれます。
- パソコンとは必要なときだけ接続することをおすすめします。パソコンを使って操作しないときは、USB接続ケーブルははずしておいてください。

リムーバブル ディスクとして使う（ICD-MS515/ICD-Sシリーズのみ）

– データストレージ機能（ICD-Sシリーズ）
– メモリースティック リーダー／ライター機能（USB端子付きメモリースティックICレコーダー）

ICレコーダーとパソコンをUSB経由で接続すると、パソコン上にあるICレコーダーで録音した音声ファイル以外の画像やテキストなどのファイルをICレコーダーや“メモリースティック”に一時保存できます。

1　ICレコーダーとパソコンをUSB経由で接続する。

2　Windows上で「マイ コンピュータ」を開き、リムーバブル ディスクが新しく認識されていることを確認する。

3　エクスプローラなどを用いて、パソコン上のファイルをリムーバブル ディスクにコピーする。

ご注意
- Digital Voice Editorを使用せずに保存したファイルはDigital Voice Editorに対応しているファイル形式であっても、ICレコーダーでは再生および表示できません。
- エクスプローラなどでリムーバブル ディスクの中身を表示させた場合、VOICEフォルダが表示されますが、VOICEフォルダ内のファイルの移動、コピー、追加、削除は必ずDigital Voice Editorをお使いください。
- 保存したデータの容量に応じて、ICレコーダーの録音可能時間が短くなります。
- パソコンでリムーバブル ディスクの初期化（フォーマット）は行わないでください。

“メモリースティック”をパソコンに取り付ける（ICD-MSシリーズ）

ICレコーダーから“メモリースティック”を抜き、“メモリースティック”をパソコンに取り付けます。

お使いのパソコンに専用スロットがある場合

パソコンの“メモリースティック”専用スロットに直接挿入します。

お使いのパソコンに専用スロットがない場合

以下のいずれかを使用します。いずれの場合もあらかじめドライバのインストールが必要です。詳しくはお使いになる別売り機器の説明書をご覧ください。

- **別売りのソニーPCカードアダプター（MSAC-PC3など）を使う**
  PCカードアダプターに“メモリースティック”を差し込み、PCカードアダプターをパソコンのPCカードスロットに挿入します。
  ご注意
  PCカードアダプターを使うときは、必ず“メモリースティック”のLOCKスイッチを解除してください。
- **別売りのソニーUSB対応メモリースティックリーダー/ライター（MSAC-US70など）を使う**
  メモリースティックリーダー/ライターを付属の接続ケーブルでパソコンのUSBポートにつなぎ、メモリースティックリーダー/ライターに“メモリースティック”を差し込みます。

対応しているファイル形式について

Digital Voice Editorでは、次のファイル形式の用件を、パソコンのハードディスクに保存、再生、編集できます。ファイル形式によっては、一部の機能が制限されます。詳しくは、オンラインヘルプの「対応しているファイル形式について」をご覧ください。

■DVFファイル形式[LPEC: ICD-SX/STシリーズ用/ICD-SXx5シリーズ用]（Digital Voice File/拡張子：.dvf）
USB端子付きのICレコーダーICD-ST/SXシリーズ、ICD-SXx5シリーズでの録音に使用される音声ファイル形式です。録音モードは、ST、STLP（ICD-SXx5シリーズのみ）、SP、LPから選べます。

■DVFファイル形式[LPEC: ICD-BPx50シリーズ用]（Digital Voice File/拡張子：.dvf）
USB端子付きのICレコーダーICD-BP250/BP450での録音に使用されるモノラル音声ファイル形式です。録音モードは、SP、LPから選べます。LPモードの音質が、ICD-BPx20シリーズ用DVFファイルのLPモードの音質よりも改善されています。

■DVFファイル形式[LPEC: ICD-BPx20シリーズ用]（Digital Voice File/拡張子：.dvf）
USB端子付きのICレコーダーICD-BP120/BP220/BP320での録音に使用されるモノラル音声ファイル形式です。録音モードは、SP、LPから選べます。

■MSV(LPEC)ファイル形式（Memory Stick Voice/拡張子：. msv）
ICレコーダーICD-SシリーズまたはICD-MS5xxシリーズでの録音に使用される音声ファイル形式です。

■MSV(ADPCM)ファイル形式（Memory Stick Voice/拡張子：. msv）
メモリースティックICレコーダーICD-MS1/MS2での録音に使用される音声ファイル形式です。

■WAVファイル形式（WAV File [8KHz/11KHz/16KHz、16bit、モノラル][44.1KHz、16bit、ステレオ]/拡張子：. wav）
パソコンの一般的なアプリケーションでの録音に使用されるPCM　8/11/16/44.1KHz、16bit、モノラル（44.1KHzのみステレオ）の音声ファイル形式です。

■MP3ファイル形式（MPEG Audio Layer3 File/拡張子: .mp3）
インターネット上で音楽などのデジタル音声の配信に広く利用されている音声ファイル形式です。
ご注意
Digital Voice Editorでは、用件ファイルをMP3形式に変換したり、保存することはできません。

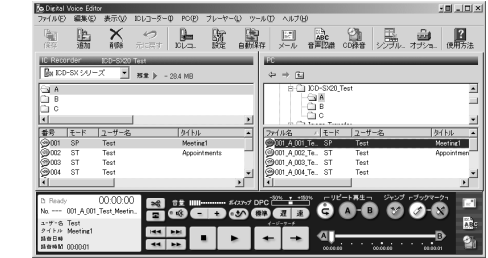
☞ 録音モード（ST/STLP/SP/LP)について
より良い音質で録音したいときは、STまたはSTLPモードをお使いください。ファイルサイズは、音質が良くなるに従って、LP、SP、STLP、STの順に大きくなります。
ST:　ステレオ標準モード　　STLP:ステレオ長時間モード
SP:　モノラル標準モード　　LP:　モノラル長時間モード

ご注意
ICSファイル形式（ICレコーダーICD-R100/R200用）は非対応のため、表示されません。ICSコンバーター（http://www.sony.co.jp/support-pa/からダウンロード可能です）を使用して、ファイル形式を変換するとDigital Voice Editor上でお使いになれます。

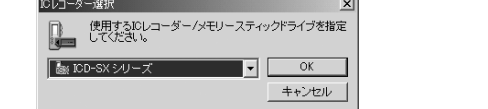
Digital Voice Editorを起動する

1 **Windows®を起動する。**

2 **［スタート］–［プログラム］を順に開き、プログラムメニューの中の［Sony Digital Voice Editor 2］から［Digital Voice Editor 2］をクリックする。**

Digital Voice Editorが起動し、メイン画面が表示されます。ICレコーダー内または“メモリースティック”内のデータが自動的に読み込まれ、ICレコーダー側用件表示部にICレコーダー内の用件フォルダと用件ファイルが表示されます。

ご注意

はじめて起動したときは、起動画面の後、手順3のICレコーダー選択ダイアログボックスが表示されます。

3 **ICレコーダー側用件表示部に何も表示されていない場合は、ICレコーダーコンボボックスから、読み込みたいICレコーダーまたは“メモリースティック”ドライブを指定し、[OK]をクリックする。**

選択したICレコーダーまたは“メモリースティック”の用件フォルダ（“メモリースティック”ドライブやICD-Sシリーズを選んだ場合は、VOICEフォルダ内の用件フォルダ）がフォルダ表示部に表示されます。

ご注意

- ドライブ名やICレコーダーの表示は、お使いになっているパソコンの環境や設定、ICレコーダーの機種、“メモリースティック”の接続環境によって異なります。
- “メモリースティック”ドライブやICD-Sシリーズを指定した場合、指定したドライブにVOICEフォルダが含まれていない場合は、「'-'には用件フォルダがありません。新規作成しますか？」というダイアログボックスが表示されます。[はい]をクリックすると、メモリーの初期設定を行ってからメイン画面が表示されます。[いいえ]をクリックするとICレコーダー選択ダイアログボックスが表示されます。
- ICレコーダーコンボボックスに、接続しているICレコーダーが表示されない場合は、接続を確認してください。
- メモリースティックICレコーダー（ICD-MSシリーズ）を接続した場合、お使いの機器の名前はICレコーダーコンボボックスには表示されませんので、“メモリースティック”ドライブを選んでください。
- ICレコーダー側のフォルダ数は、お使いになっているICレコーダーによって異なります。

終了する

画面右上の［X］ボタンをクリックするか、［ファイル］メニューから［終了］をクリックします。

オンラインヘルプを使う

各メニューの内容や詳しい説明についてはオンラインヘルプを、最新情報についてはReadmeをご覧ください。Readmeを開くには、［スタート］ボタンをクリックし、［プログラム］→［Sony Digital Voice Editor 2］→［はじめにお読みください］を選びます。

オンラインヘルプを表示する

下記のいずれかを行ってください。
- ［スタート］ボタンをクリックし、［プログラム］→［Sony Digital Voice Editor 2］→［ヘルプ］を選ぶ。
- Digital Voice Editorを起動した状態で、［ヘルプ］メニューから［使用方法］を選ぶ。
- Digital Voice Editorを起動した状態で、ツールバーの ? ボタンをクリックする。

メイン画面の各部の名前と働き

1 **メニューバー/ツールバー**

メニューバーは各メニューコマンドを実行します。ツールバーには、頻繁に使用するメニューコマンドがボタンになってます。詳しくはオンラインヘルプをご覧ください。

2 **ICレコーダーコンボボックス**

表示したいICレコーダーまたは“メモリースティック”ドライブをICレコーダーコンボボックスから選びます。選択されたICレコーダー/“メモリースティック”ドライブの用件フォルダが用件フォルダ表示部に表示されます。

3 **ICレコーダー側用件フォルダ表示部／用件表示部**

上の用件フォルダ表示部には、ICレコーダーコンボボックス2で選んだICレコーダー/“メモリースティック”ドライブの用件フォルダが一覧表示されます。用件フォルダ表示部でフォルダを選択すると、選択された用件フォルダ内の用件が下の用件表示部に表示されます。用件表示部では、各用件の用件番号、録音モード（ST/STLP/SP/LP）、ユーザー名、タイトル、録音日時、録音時間、重要マーク、ブックマーク、アラーム設定、圧縮方式、ファイル名が一覧表示されます。

ご注意

ICD-BP/ICD-ST/ICD-SXシリーズでは、ファイル名は表示されません。

4 **プレーヤー部**

用件の再生操作を行う部分です。再生中の用件の情報も表示されます。シンプルプレーヤーモードで表示することもできます。

5 **PC側フォルダツリー表示部／用件表示部**

上のフォルダツリー表示部には、PC内のドライブとフォルダがツリー表示されます。フォルダツリー表示部でフォルダを選ぶと、選んだフォルダ内の用件が下の用件表示部に表示されます。フォルダ切り替えボタン（⇐/⇒/🗀）をクリックして以前に表示したフォルダ、上の階層のフォルダ、またはデスクトップに表示を切り換えることもできます。用件表示部では、各用件のファイル名、録音モード（ST/STLP/SP/LP）、ユーザー名、タイトル、録音日時、録音時間、重要マーク、ブックマーク、圧縮方式が一覧表示されます。

6 **特殊操作部**

音声認識、CD Recording Tool for DVE、音声メールの各ソフトウェアを起動するためのボタンがあります。

ご注意

ICレコーダーでの残量表示とDigital Voice Editorでの残量表示が異なることがありますが、これはICレコーダーがシステム上必要な領域を差し引いて表示しているためで、故障ではありません。

プレーヤー部（通常時）

ファイル分割/結合　再生スピード（DPC）調整　リピート再生　音量調節/ボイスアップ　ブックマーク

カウンター表示　用件の情報表示　録音時間表示

再生制御ボタン（前／後の用件へ/早戻し/早送り/停止/再生/イージーサーチ）

再生スライダー　用件の再生に合わせてスライダーが移動します。

プレーヤー部（シンプルプレーヤーモード時）

再生スピード（DPC）調整　再生スライダー

前に出す/後ろに隠す、クローズボタン

リピート再生ボタン

再生制御ボタン（ボイスアップ再生/前/後の用件へ/停止/再生/イージーサーチ）

音量調節

用件をパソコンに保存する

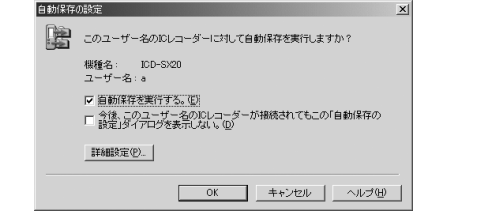
以下の方法で、パソコンのハードディスクなどに音声ファイルとして保存できます。
- 自動保存機能で保存する（ICD-SX/STシリーズ、“メモリースティック”のみ）
- ドラッグアンドドロップで保存する（以下説明参照）
- ファイル形式、ファイル名、保存先フォルダ名を指定して保存する（オンラインヘルプ参照）

ご注意
- ファイル名には以下の文字、記号は使用できません。
  ￥　/　:　＊　?　”　<　>　|
- すでに同じ名前の用件が保存されているときは「ファイルの上書きの確認」ダイアログボックスが表示されます。上書きするときは［はい］を、ファイル名を変更するときは［いいえ］をクリックしてください。
- 保存した用件にはアラーム設定の情報は残りません。

用件を自動的に保存する（自動保存）（ICD-SX/STシリーズ、“メモリースティック”のみ）

Digital Voice Editorの起動中にICレコーダー（ICD-SX/STシリーズのみ）を接続するか、“メモリースティック”を挿入すると、自動的に未保存の用件をパソコンのハードディスクに保存することができます。自動保存の機能を利用するには、あらかじめオプションウィンドウの自動保存タブで、自動保存を有効に設定しておきます。また、ICレコーダーの場合は、本体のユーザー名を設定しておく必要があります。詳しくは、オンラインヘルプをご覧ください。

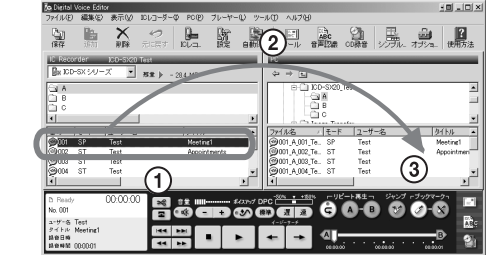
1 **Digital Voice Editor起動中にICD-SX/STシリーズのICレコーダーをパソコンに接続する。または、“メモリースティック”を挿入する。**

「自動保存の設定」ダイアログボックスが表示されます。

2 **［自動保存を実行する。］にチェックを付けて、［OK］をクリックする。**

ICレコーダー内または“メモリースティック”内の用件が、パソコン上であらかじめ設定したフォルダに自動的に保存されます。

用件をドラッグアンドドロップで保存する

1 **ICレコーダー側の用件表示部で保存したい用件をクリックして選ぶ（①）。**

複数の用件（ひとつのフォルダ内）を選択できます。連続した用件を選ぶ場合はShiftキーを押しながら、離れた用件を選ぶ場合はCtrlキーを押しながらクリックします。

2 **PC側用件表示部にドラッグ（②）アンドドロップ（③）する。**

用件がPC側用件表示部に表示され、パソコンのハードディスクに保存されます。

ご注意
- PC側用件表示部のフォルダツリー表示部にはドロップできません。
- 用件はオプションウィンドウで設定されたファイル形式で保存されます。ファイル名は自動的に付けられます。

フォルダ中の用件を一度に保存する

ICレコーダー側用件表示部から保存したい用件フォルダをクリックして選び、PC側用件表示部にドラッグアンドドロップする。

用件フォルダ内の用件がフォルダごとオプションウィンドウで設定されたファイル形式で保存されます。ファイル名は自動的に付けられます。

全用件を一度に保存する

［ICレコーダー］メニューから［全体保存］を選ぶ。

「全体保存」ダイアログボックスが表示されます。保存先とファイル形式を指定します。

フォルダ名は、自動的に「ICレコーダーの機種名__本体ユーザー名__現在の年月日」（例：ICD-SX20_UserName_2003_07_04）が入力されます。フォルダ内の用件のファイル名は、オプションウィンドウでの保存ファイル名の設定に従って自動的に付けられます。

パソコンに保存した用件をICレコーダーに追加する

以下の方法で、1件ずつまたは1フォルダ内の用件を一度に追加できます。
- 指定したフォルダの最後に追加する（オンラインヘルプ参照）
- ドラッグアンドドロップでフォルダの任意の位置に追加する（以下説明参照）
- 新しいフォルダとして追加する（ICD-MSシリーズのみ）

ご注意
- 追加した用件のアラーム設定は解除されています。
- ICレコーダーのメモリーいっぱいまで録音されているときや、追加すると1フォルダ内の用件が99件（“メモリースティック”の場合は999件）を超えてしまう場合は、用件を追加することはできません。用件をいくつか消去してから、操作し直してください。

用件を1件ずつICレコーダーに追加する

1 **PC側用件表示部で保存したい用件をクリックして選ぶ（①）。**

複数の用件を選ぶには、連続して選ぶ場合はShiftキーを押しながら、離れた用件を選ぶ場合はCtrlキーを押しながらクリックします。異なるファイル形式のファイルも同時に選べます。

2 **ICレコーダー側用件表示部の追加したい位置にドラッグ（②）アンドドロップ（③）する。**

ドロップする場所にラインが表示され、ラインが表示された行に選択した用件が追加されます。

☞ ICレコーダー側用件表示部の上にあるフォルダ表示部のフォルダ上にドラッグアンドドロップすると、用件がフォルダ内の最後に追加されます。

フォルダ中の用件を一度にICレコーダーに追加する

PC側用件表示部から追加したいフォルダをクリックして選び、ICレコーダー側用件表示部の追加したい位置にドラッグアンドドロップする。

ドロップする場所にラインが表示され、ラインが表示された行に選択したフォルダ内の用件が追加されます。

☞ ICD-MSシリーズの場合、ICレコーダー側用件表示部の上にあるフォルダ表示部上にドラッグアンドドロップすると、ドロップする場所にラインが表示されます。選択したフォルダが新規フォルダとして登録され、その中に用件が追加されます。

故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に、もう一度下記項目をチェックしてみてください。それでも解決しない場合、ご不明な点は、下記に記載のパーソナルオーディオ·カスタマーサポートページをご覧いただくか、お客さまご相談センターまでお問い合わせください。ICレコーダーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

症状	原因/対策
インストールできない。	● ハードディスクの空き容量が少ない。 →容量を確認してください。 ● Windows®95/NTにインストールしようとした。 →対応しているOSにインストールしてください。（Windows®95/NTには対応していません。） ● Windows® XP Professional/Home Edition上で「制限付きアカウント」に所属するユーザー名でログオンしている。 →「コンピュータの管理者」に所属するユーザー名（半角英数）でログオンしてください。 ● Windows®2000 Professional上で全角のユーザー名でログオンしている。 →「Administrator」でログオンしてください。 ● 日本語以外のOSにインストールしようとした。 →日本語のOSにインストールしてください。
ICレコーダーをUSB接続すると、「ハードウェアのインストール」という警告が表示される。	● ICレコーダーによっては、Windows®XP上ではじめて接続した場合に表示される場合があります。動作上問題はありませんので、［続行］を選択してください。
ICレコーダーまたは“メモリースティック”と接続できない。	● ソフトウェアのインストール、接続ケーブルや“メモリースティック”の接続などを正しく行ったか確認してください。 – お使いのICレコーダーのドライバをインストールしてください。 – 外付けUSBハブをご使用の場合には、直接パソコンに接続してください。 – ICレコーダー側の接続ケーブルを抜き差ししてください。 – 他のUSBポートで接続してみてください。 – “メモリースティック”またはICD-Sシリーズのドライブが正しく認識されているか確認してください。また、アダプターをお使いの場合は、正しく接続されているか確認してください。 ● システムサスペンド/システムハイバネーションモードに移行している。 →システムサスペンド/システムハイバネーションモードに移行しないでください。
ICレコーダーが動作しない	● パソコンで初期化（フォーマット）している。 →ICレコーダーで初期化を行ってください。詳しくは、ICレコーダーの取扱説明書をご覧ください。（ICD-BP/ST/SXシリーズには初期化機能はありません。）
再生音量が小さい、音が出ない。	● サウンドボードがついていない。 ● パソコンにスピーカーが内蔵または接続されていない。 ● ミュートが解除されていない。 ● パソコン側で音量を上げてみてください。（詳しくはお使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。） ● WAVファイルの場合は、サウンドレコーダー（Windows®に搭載）で音量を上げて保存しなおすこともできます。
保存した用件ファイルが再生、編集できない。	● 対応していないファイル形式の用件は再生できません。また、ファイル形式によっては一部の編集機能がお使いになれません。詳しくは、オンラインヘルプをご覧ください。 ● CDから録音されたファイルは、録音を行ったパソコンと異なるオーナー名のパソコンでは使用できません。
カウンターやスライダーの動きがおかしい、雑音が入る。	● インデックスの追加／削除、分割／結合、上書き録音、追加録音などを行った用件をパソコン上で再生したときに発生する場合があります。 →いったんハードディスクに保存してから*再度ICレコーダーに戻すと、データが最適化され、正常な再生に戻ります。（*お使いのICレコーダーの形式に合ったファイル形式で保存してください。）
用件数が多くなると動作が遅くなる。	● 録音時間の長さに関係なく、ICレコーダー内の用件の総数が多いと、処理に時間がかかることがあります。
用件の保存・追加・削除中に画面が動かなくなる。	● 録音時間の長い用件の場合、コピーまたは削除に時間がかかります。 →コピーまたは削除が終了するまでお待ちください。通常の操作ができるようになります。
本ソフトウェアを起動したときフリーズ（ハングアップ）してしまう。	● ICレコーダーと通信を行っている間は絶対にケーブルを抜かないでください。パソコンの動作が不安定になったり、ICレコーダー内のデータが壊れる恐れがあります。 ● Windows®2000 Professionalでは管理者権限（Administrator）、または標準ユーザー権限（Power Users）に所属するユーザー名（半角英数字）でログオンしてお使いください。Windows® XP Professional/Home Editionでは必ず「コンピュータの管理者」に所属するユーザー名（半角英数）でログオンしてお使いください。 ● 他にインストールされているドライバおよびアプリケーションソフトとのコンフリクトの可能性があります。 ● 本ソフトウェアをインストールした後に、Memory Stick Voice Editor 1.0/1.1/1.2/2.0をインストールしないでください。本ソフトウェアが正常に動作しなくなります。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。
- お使いのICレコーダーの型名
- Digital Voice Editorのバージョン
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日
- ご使用の環境：－ご使用パソコンの機種名
  －メモリー容量
  －ハードディスクなどの容量

お問い合わせ窓口のご案内

本製品についてご不明な点や技術的なご質問、故障と思われるときのご相談については、下記のお問い合わせ先をご利用ください。

- **ホームページで調べるには→パーソナルオーディオ・カスタマーサポートへ**
  （http://www.sony.co.jp/support-pa/）
  ICレコーダーに関する最新サポート情報や、よくあるお問い合わせとその回答をご案内するホームページです。
- **電話•FAXでのお問い合わせはtお客様ご相談センターへ（下記電話•FAX番号）**

■本製品の商品カテゴリーは［オーディオ］－［ウォークマン］です。

■お問い合わせの際は、次のことをお知らせください。
- お使いのICレコーダーの型名
- Digital Voice Editorのバージョン
- ご相談内容：できるだけ詳しく
- お買い上げ年月日
- ご使用のパソコンの環境
  － ご使用のパソコンの機種名
  － メモリー容量
  － ハードディスクなどの容量

ソニー株式会社
〒141-0001
東京都品川区北品川6-7-35

● http://www.sony.co.jp/SonyDrive/　お客様ご相談センター
● ナビダイヤル 0570-00-3311（全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）
● 携帯電話・PHS　03-5448-3311（ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください）
● FAX　0466-31-2595　受付時間：月～金 9:00～20:00　土・日・祝日 9:00～17:00